

東松山市・大東文化大学協働研究報告書ブックレット（No.2）

中心市街地活性化方策

埼玉県東松山市
大東文化大学

東松山市と大東文化大学との協働研究について

東松山市と同市内にキャンパスが所在する大東文化大学とは、平成19年4月に「地域連携協働研究協定書」を取り交わして地域の政策課題を協働研究することとし、その後「地域連携協働研究協定書に基く協働研究実施要領」（平成24年1月）にもとづき、具体的な研究テーマの設定と研究員の人選を行い、研究を開始しました。

「農業振興方策」と「中心市街地活性化方策」の二つの研究テーマのもとで、双方から5人程度の研究員が月1回程度の研究会や視察等を行いながら研究を進めてきました。研究には東京電機大学の教員や大東文化大学の大学院生もオブザーバーとして参加してきました。

このうち「中心市街地活性化方策」について、研究結果をとりまとめましたので「東松山市・大東文化大学協働研究報告書ブックレット No.2『中心市街地活性化方策』」として発表いたします。

なお、本報告書の概要は、東松山市のホームページと大東文化大学のホームページでもご覧いただけます。

本研究成果が、東松山市はもとより他地域の中心市街地活性化方策の参考となるとともに、地方公共団体と大学との連携の研究成果として参考にしていただければ幸いです。

平成26年3月

東松山市・大東文化大学協働研究

第2分科会研究員一同

【目 次】

第1章 中心市街地の現状と課題について……………	1
1 中心市街地の現状	
2 東松山市の取組状況	
3 中心市街地活性化の必要性	
第2章 先進地視察について……………	4
第3章 アンケート調査の実施について……………	6
1 中心市街地におけるアンケート調査	
2 郊外の大型商業施設におけるアンケート調査	
第4章 試行的取組の実施について……………	18
1 まちなかウォーキングマップ「東松山散策マップ」の作成	
2 中心市街地のイメージアップを図るためのデザイン提案	
第5章 中心市街地活性化方策の提案について……………	22
1 中心市街地活性化を目的とした各団体の連携	
2 中心市街地の誘客ターゲットの明確化	
第6章 総括……………	26
1 活動経過	
2 研究を振り返って	
3 研究員名簿	
資料Ⅰ アンケート調査票（中心市街地で実施時に使用）……………	40
資料Ⅱ アンケート調査票（郊外の大型商業施設で実施時に使用）……………	41

第1章 中心市街地の現状と課題について

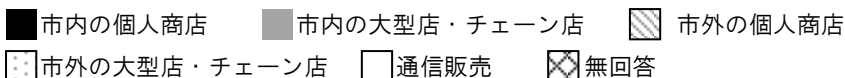
1 中心市街地の現状

中心市街地は、城下町や宿場町といった地域の歴史的経緯を背景に居住、商業、交通拠点等の各種機能を担ってきた市町村の中心であり、文化や伝統も含めた広い意味での社会資本が蓄積された地域である。

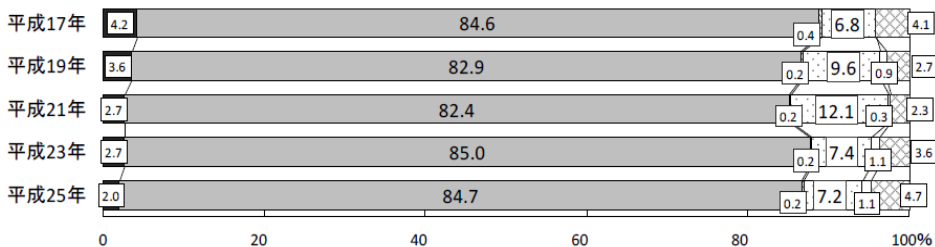
一方、戦後の人口が増え続ける時代における急速な車社会の進展、中心市街地の地価高騰に伴う住居の郊外移転、工場や大規模商業施設の郊外展開が進み、結果として、中心市街地では人口減少、商業等の都市機能の空洞化が進み、かつての賑わいが失われつつある。

市民意識調査（2,000人無作為抽出）によると、個人商店の消費者は減少傾向にあり、こうした消費行動の変化は、中心市街地の店舗数減少等と相互に影響していると考えられる。

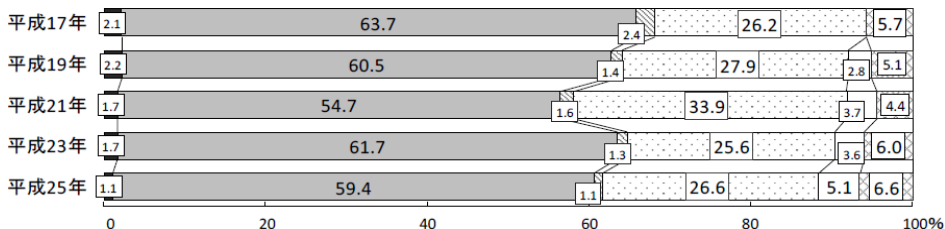
【市民意識調査結果の推移】



（食料品の主な購入場所）



（衣服・服飾品の主な購入場所）



【中心市街地内商店街の店舗数・年間販売額の推移】

商業統計調査（経済産業省）直近3回分の公表数値

	平成14年	平成16年	平成19年
事業所数	229	203	170
年間商品販売額(百万円)	20,826	19,448	17,072

2 東松山市の取組状況

東松山市では、空洞化の進行する中心市街地の活性化を図るため、次に掲げる課題への対応を目的として、平成13年10月に「東松山市中心市街地活性化基本計画」を策定し、東武東上線東松山駅を拠点とした63.6haを中心市街地と定め、駅前広場や都市計画道路の整備等のハード事業を中心に事業を展開している。

- ① 居住人口の減少、高齢化社会への対応、環境問題への対応
- ② 比企郡の中心、東松山市の顔にふさわしい商店街の活性化
- ③ 交通環境の改善
- ④ 東松山市の玄関口、顔づくり
- ⑤ まちの資産の活用とネットワーク化
- ⑥ ソフト面での魅力づくり

こうした取組の成果は、平成25年度市民意識調査において、33項目に分類された市の事業のうち、「よくなってきた事業」として「駅周辺など中心部の活性化」を選択した市民が最も多かったことに反映されている。

しかし一方、同分類において、「今後、重点的に取り組んでいくべき事業」としても、「駅周辺など中心部の活性化」は「医療サービス」、「高齢者福祉・介護サービス」に次ぐ3番目に選択され、依然として、地元住民が中心市街地活性化の必要性を感じていることが分かる。

3 中心市街地活性化の必要性

豊富な商品から安くても良い商品を選ぶという効率的な視点に立ち、地域住民が総じて自家用車で移動でき、またはインターネットを利用している（※1）と仮定すれば、郊外の大型店やネットショッピングがあれば日常生活に不便は生じないといえるかもしれない。しかし、社会全体の高齢化・単身化が急速に進む中、東松山市における単身高齢者世帯数の割合も全世帯の5%程度まで増加しており、今後は、自力で食料品や日用品を買うことが困難ないわゆる「買い物弱者」が増えていくことが予想される。

こうした社会背景の中、公共交通の結節点である中心市街地には、安定して日常生活インフラを提供することが求められているといえる。

また、長い歴史の中で独自の文化・伝統が集積している中心市街地はまち全体のイメージを象徴する「まちの顔」であるため、買い物の利便性のみならず、人々の交流や自己実現の場として、まちの活気を生み出していくことが期待されている。（※2）

（※1）平成25年度市民意識調査では、市民の約25%はインターネットを利用していないという結果であった。（約8割は60歳以上）

（※2）平成25年度市民意識調査で記載のあった自由意見（388件）のうち、1割以上が駅周辺の活性化を期待するものであった。

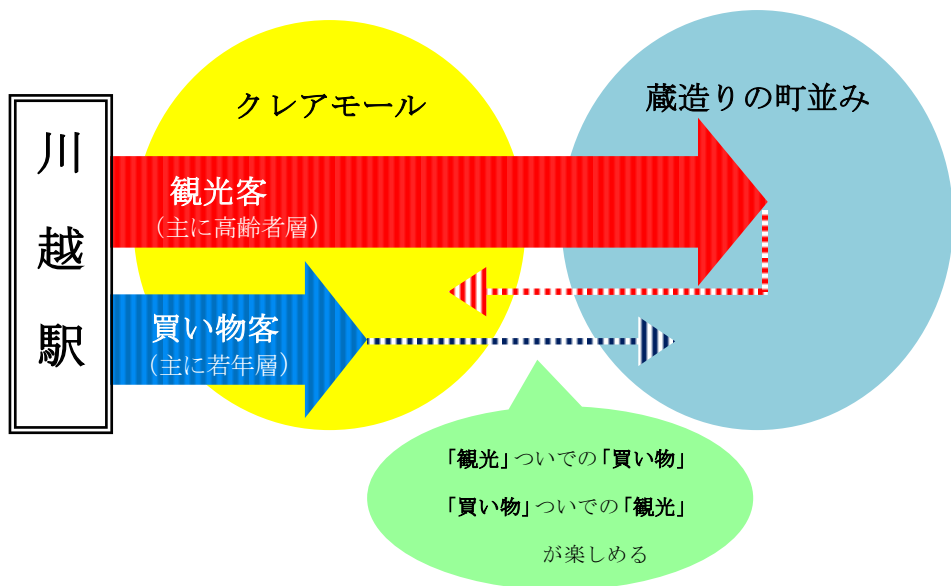
（文責：柳沢 知孝）

第2章 先進地視察について

平成24年6月23日（土）に「蔵のまち」として有名な川越市の中心市街地を訪れた。

東武東上線川越駅から北へ1km以上続くクリアモール(川越サンロード商店街、川越新富町商店街)には大型複合店舗やファストフード店等が立ち並び、さらに北へ進むと、大正ロマンの風情が漂う大正浪漫夢通り商店街、さらには明治の蔵造りの町並みを残す川越一番街、川越菓子屋横丁会が続き、それぞれの商店街が有する異なる時代の景観特徴が活かされ、訪れた人々の回遊性を高めている。

(川越市における中心市街地の回遊性向上イメージ)



★視察の結果、以下のようなアイデアが得られた。

○川越市は、駅から離れた場所に位置する商店街を観光地化（非日常的な空間や商品を提供）し、駅前の商店街（日常的な娯楽や商品を提供）と連携しながら、訪問客の相乗的な増加につなげている。

→東松山市駅周辺も、箭弓稲荷神社をはじめとした歴史的な建造物があり、

こうした観光資源を活用することで、中心市街地への誘客につなげることができるのではないかと。

○川越市では快適な歩行空間を確保するため、クリアモールは土日のみ車両進入禁止（13:00～18:00）としている。また、歩道を石畳とすることで、歴史が感じられる快適な歩行空間を創出している。

→東松山駅周辺は、インターロッキング舗装された路地が張り巡らされ、独特の歩行空間を有している。既に、市内のNPO法人ひき21東松山を中心とする実行委員会が主催する観光イベント「夢灯路」において活用されているが、より一層の活用ができるのではないかと。

【参考データ】

埼玉県産業労働部平成21年度商店街通行量調査による調査結果（県内91の商店街において、平日2日及び休日1日の合計3日間における目視調査）

	商店街名	平日通行量 (人/日)	休日通行量 (人/日)	特記事項・留意点
川越市	川越サンロード商店街	24,740	38,314(※)	平日<休日、男性<女性 ・休日は若年層のグループが多く訪れる ・平日も観光客が来ている
	川越一番街	5,352	6,414	平日<休日、男性<女性 ・ほとんどが観光目的 ・高齢者が比較的多い
東松山市	ぼたん通り商店会	3,812	3,270	平日>休日、男性>女性 ・通勤通学で駅を利用する人の通行が多い
	まるひろ通り商店会	3,381	2,435	平日>休日、男性<女性 ・自転車の通行者が4割と比較的多い

※…調査日（11月15日）が川越祭り実施日であることに留意する必要がある

（文責：矢部 克昌）

第3章 アンケート調査の実施について

研究の参考とするため、研究メンバーのほか、大東文化大学の学生の協力を得て、「中心市街地（イベント会場）」と「郊外の大型商業施設」の2箇所において、聞き取りによるアンケート調査を実施した。

1 中心市街地におけるアンケート調査

中心市街地に対するニーズ等について、幅広い意見を聞くことを目的とし、東松山市内外より多くの方が中心市街地に訪れるウォーキング大会「日本スリーデーマーチ」の会場においてアンケート調査を行った。

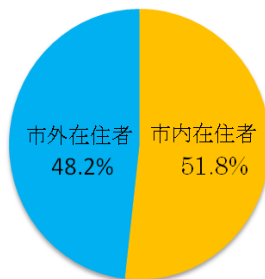
【実施日】平成24年11月4日（日）

【実施場所】日本スリーデーマーチ会場（松山第一小学校）

【アンケート様式】資料（40ページ）に掲載

【回答者数】

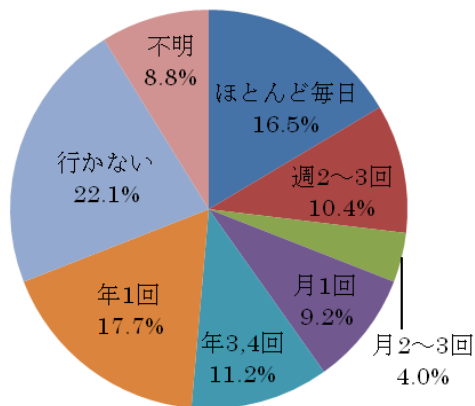
市内在住者	129人
市外在住者	120人
合計	249人



【参考集計データ】

Q. 東松山市の中心市街地に行く頻度を教えてください。

選択肢	回答者数
ほとんど毎日	41人
週2～3回	26人
月2～3回	10人
月1回	23人
年3～4回	28人
年1回	44人
行かない	55人
不明	22人
合計	249人

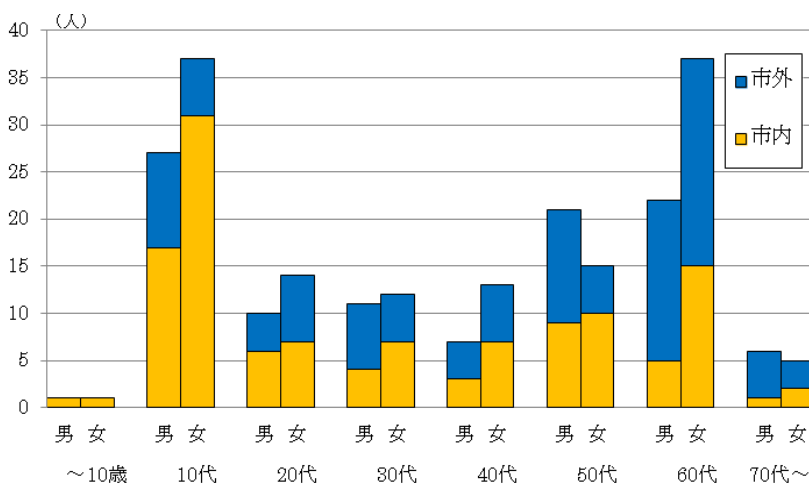


Q. 東松山市中心市街地の商店街へ行く目的を教えてください。(複数選択可)

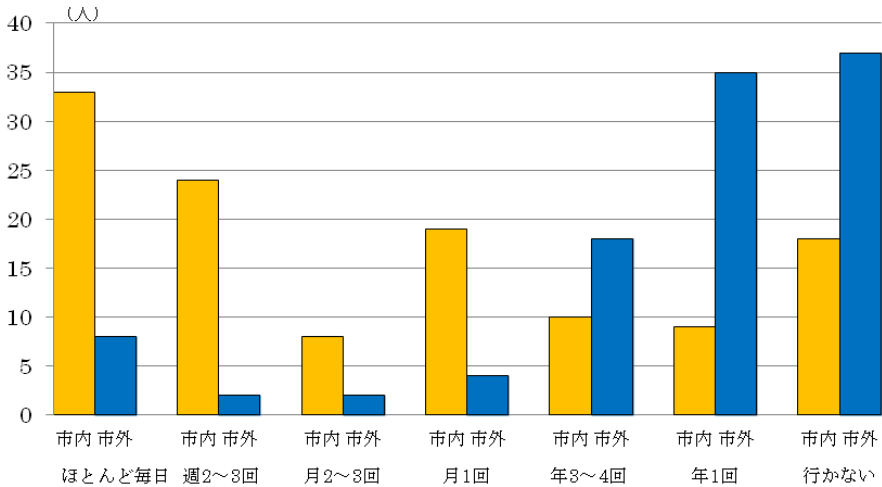
選択肢	回答者数	割合 (／249人)
飲食 (やきとり)	20人	8.0%
飲食 (やきとり以外)	19人	7.6%
買い物	80人	32.1%
イベントへの参加	77人	30.9%
仕事のため (学校も含む)	13人	5.2%
散歩コース	4人	1.6%
友人・知人がいる	6人	2.4%
自宅 (帰省含む)	14人	5.6%
その他	6人	2.4%
無回答	86人	34.5%

【参考グラフ】

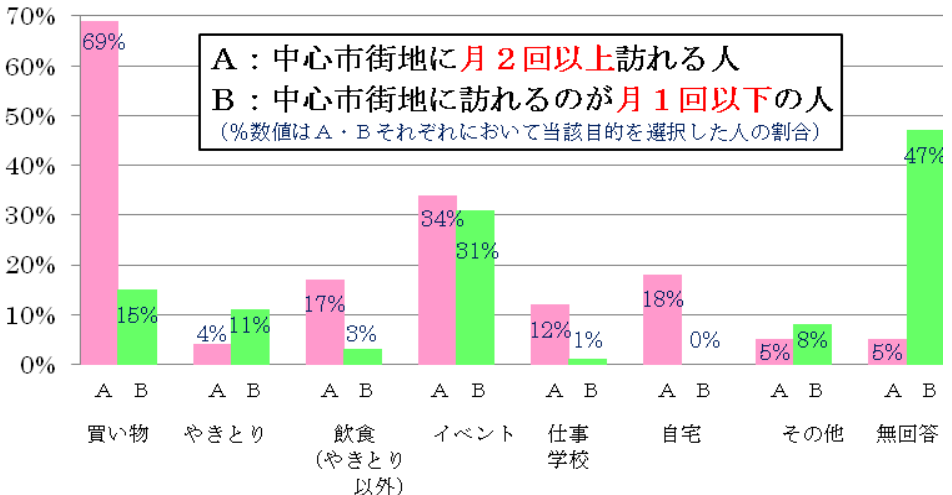
①回答者の年齢・性別構成



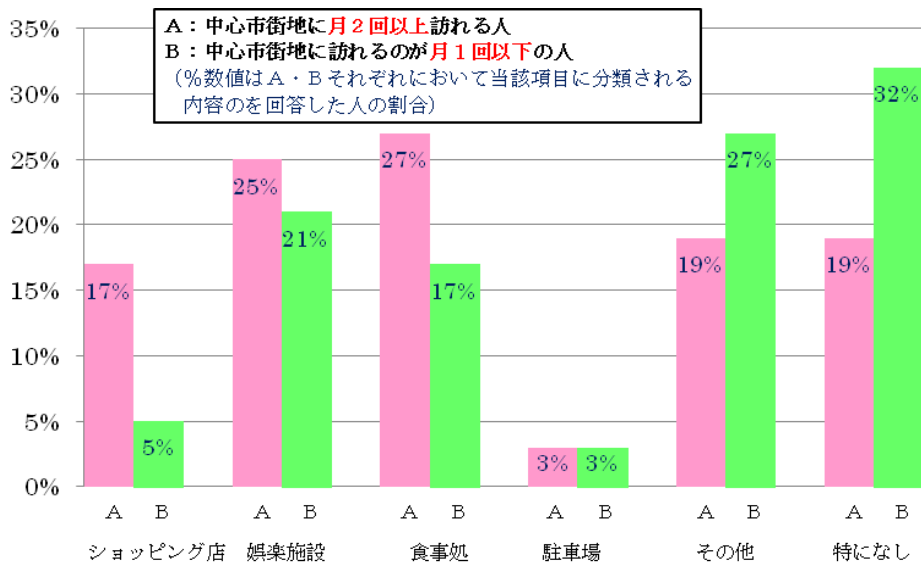
②中心市街地に訪れる頻度別の人数（市内・市外在住者別）



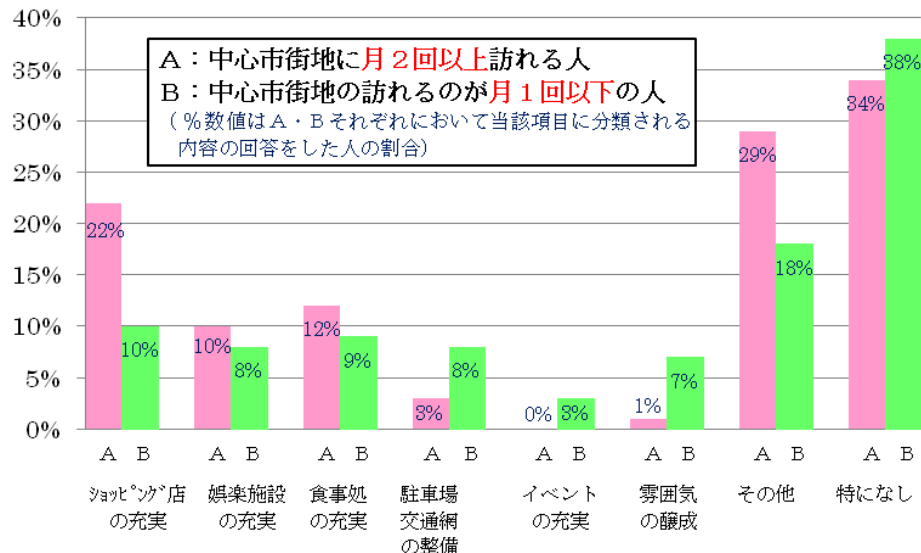
③中心市街地に訪れる目的



④東松山駅前にほしいもの



⑤中心市街地に希望すること



調査2 郊外の大型商業施設におけるアンケート調査

東松山市の郊外に位置する大型ショッピングセンター「ピオニウオーク東松山」は、平成22年のオープン以来、賑わいを増している状況である。大型ショッピングセンターを訪れる人達の傾向や中心市街地に対する意見等を聞くことを目的とし、「ピオニウオーク東松山」においてアンケート調査を行った。

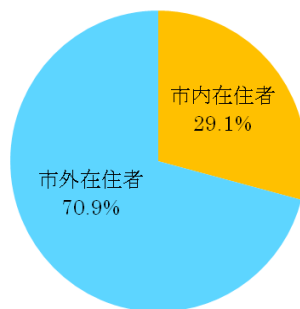
【実施日】平成25年11月30日（土）

【実施場所】ピオニウオーク東松山（東松山市あずま町地内）

【アンケート様式】資料（41ページ）に掲載

【回答者数】

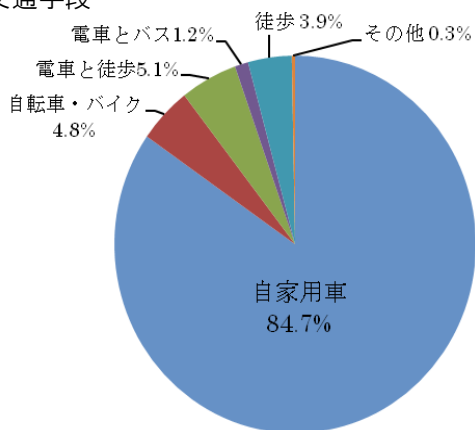
市内在住者	97人
市外在住者	236人
合計	333人



【参考集計データ】

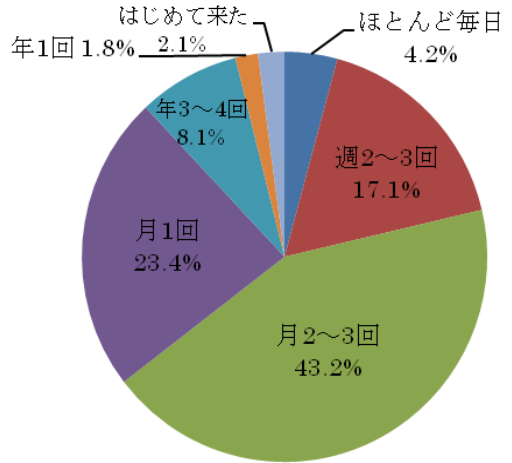
Q. ピオニウオーク東松山までの交通手段

選択肢	回答者数
自家用車	282人
自転車・バイク	16人
電車と徒歩	17人
電車とバス	4人
徒歩	13人
その他	1人
合計	333人



Q. ピオニウォーク東松山に来る頻度を教えてください。

選択肢	回答者数
ほとんど毎日	14人
週2～3回	57人
月2～3回	144人
月1回	78人
年3～4回	27人
年1回	6人
はじめて来た	7人
合計	333人

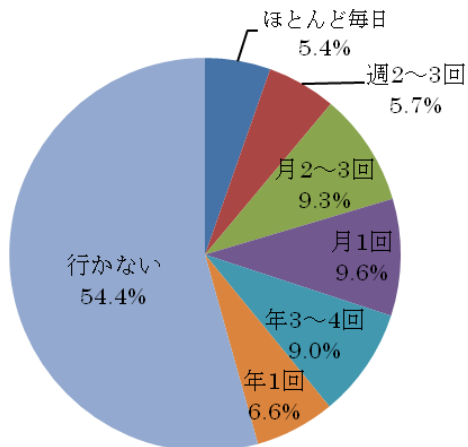


Q. ピオニウォーク東松山に来る主な目的を教えてください。(複数選択可)

選択肢	回答者数	割合 (／333人)
買い物 (食料品)	140人	42.0%
買い物 (衣料品)	190人	57.1%
買い物 (日用品)	68人	20.4%
買い物 (その他)	31人	9.3%
飲食	45人	13.5%
イベント	8人	2.4%
散歩	12人	3.6%
なんとなく	28人	8.4%
その他	30人	9.0%

Q. 東松山市の中心市街地に行く頻度を教えてください。

選択肢	回答者数
ほとんど毎日	18人
週2～3回	19人
月2～3回	31人
月1回	32人
年3～4回	30人
年1回	22人
行かない	181人
合計	333人



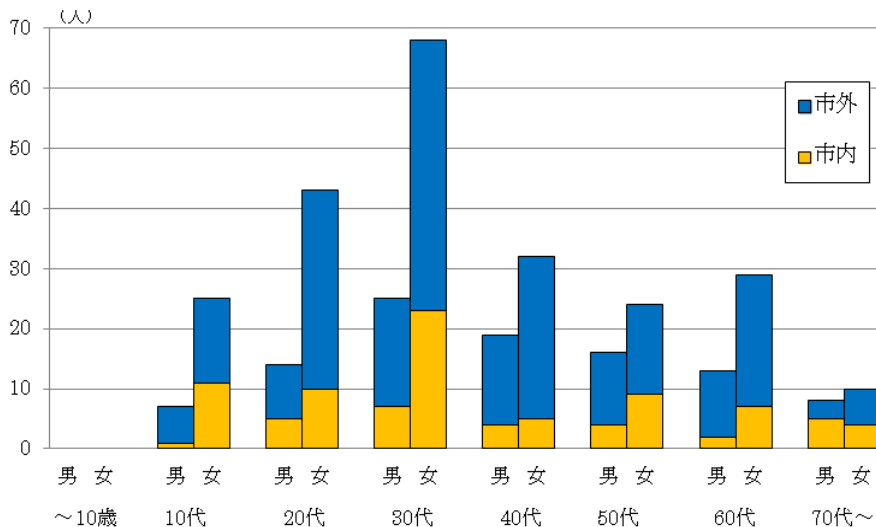
Q. 東松山市の中心市街地に行く主な目的を教えてください。（複数選択可）

※「月2～3回」以上行く人のみ対象として聞き取り（68人）

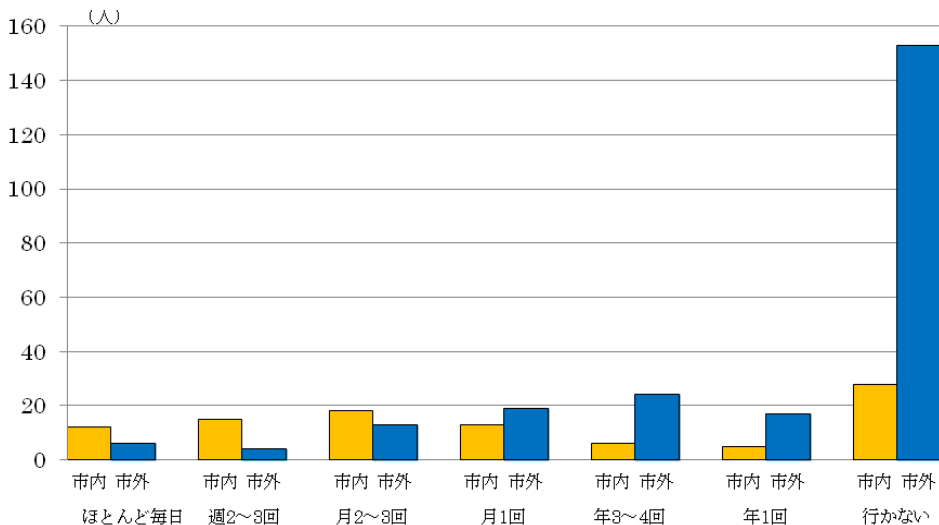
選択肢	回答者数	割合（／68人）
買い物（食料品）	33人	48.5%
買い物（衣料品）	10人	14.7%
買い物（日用品）	11人	16.2%
買い物（その他）	1人	1.5%
飲食（やきとり）	1人	1.5%
飲食（やきとり以外）	3人	4.4%
イベント	11人	16.2%
その他	40人	58.8%

【参考グラフ】

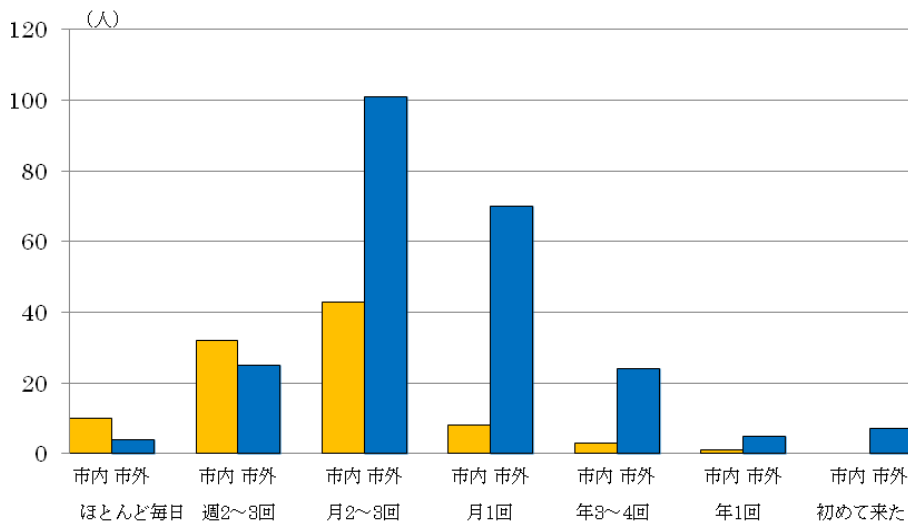
①回答者の年齢・性別構成



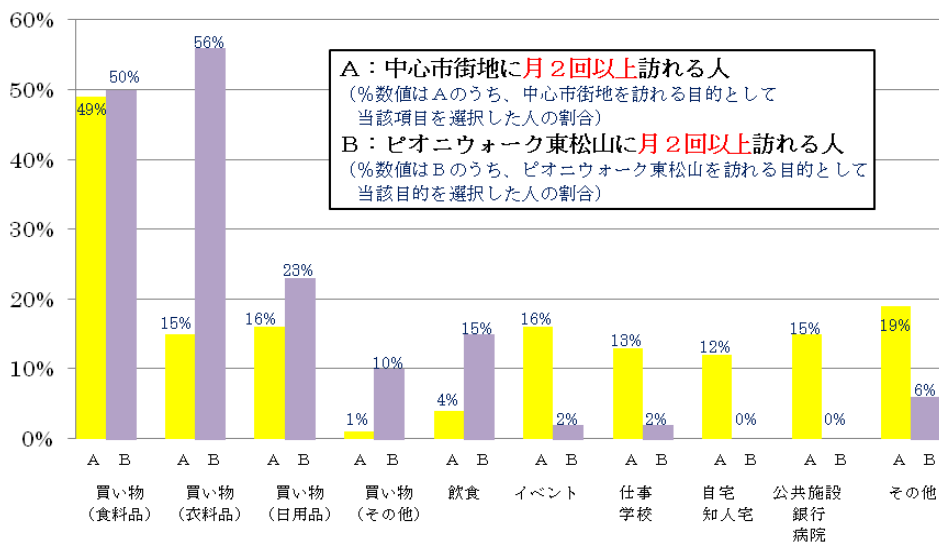
②中心市街地に訪れる頻度別の人数（市内・市外在住者別）



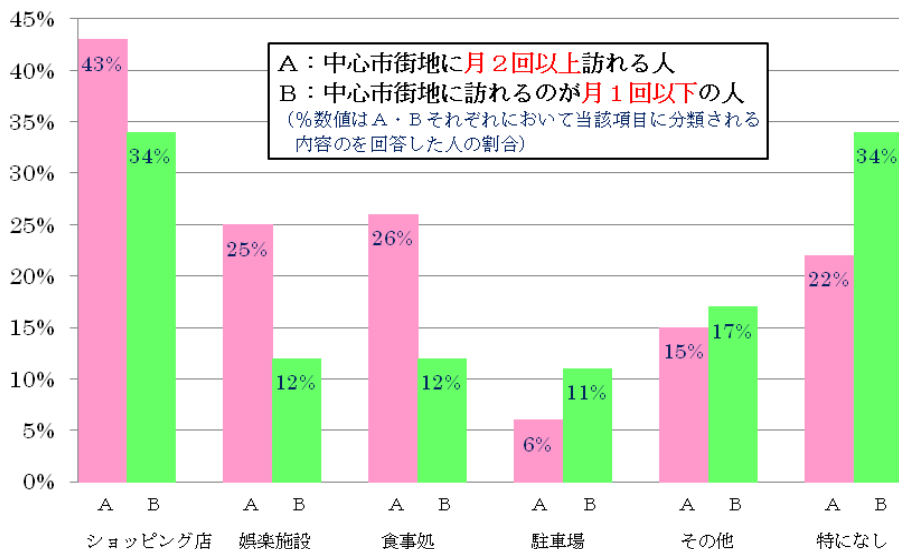
③「ピオニウォーク東松山」に訪れる頻度別の人数（市内・市外在住者別）



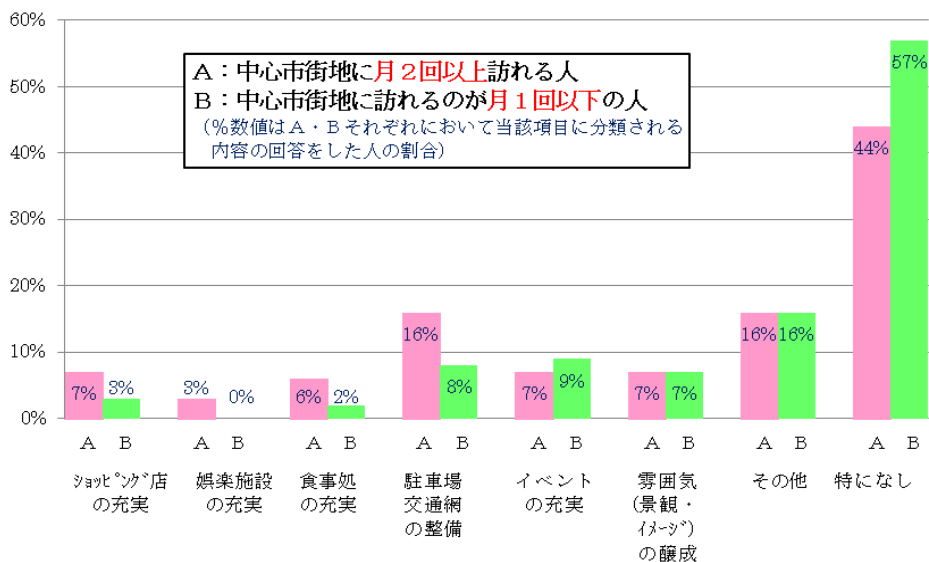
④中心市街地・ピオニウォーク東松山に訪れる目的（月2回以上訪れる人）



⑤ 東松山駅前にほしいもの



⑥ 中心市街地に希望すること



3 アンケート結果の考察

【定量分析】

① 中心市街地のリピーター（月2回以上訪れている）に見られる傾向

- ・ 中心市街地を訪れる目的
「買い物（主に食料品）」が最も多く、次に多いのが「イベント」。
「飲食」を目的とする人は少ない。
- ・ 東松山駅前にほしいもの
4人中1人が「食事処」「娯楽施設」がほしいと感じている。
- ・ 中心市街地に希望すること
「特になし」が最も多い。
なお、中心市街地で実施したアンケートでは「ショッピング店の充実」を挙げた人が多く、ピオニウォーク東松山で実施したアンケートでは「駐車場・交通網の整備」を挙げた人が多い。

② 中心市街地に訪れるのが月1回以下の人（非リピーター）の傾向

- ・ 中心市街地を訪れる目的
「イベント」が比較的多い。
- ・ 東松山駅前にほしいもの
「特になし」が多い。
- ・ 「中心市街地に希望すること」には、次のような傾向がある。
「特になし」が多い。

③ ピオニウォーク東松山に月2回以上訪れている人（リピーター）の傾向

- ・ ピオニウォーク東松山を訪れる目的
大半が「買い物」であるが、飲食を目的とする人も1割以上いる。



【定性分析】

アンケートで聞かれた主な意見

- 東松山駅周辺にも映画館・カラオケなどの娯楽施設や学生が入りやすいファミリーレストラン、カフェがほしい。(若年層)
- 子連れでも気兼ねなく過ごせる店・空間があれば利用する。(子育て世帯)
- 商店街に活気がほしい。文化的なものがほしい。(高齢者)
- 東松山駅近くに以前あったファストフード店がなくなってしまった。駅前にも店があれば、通勤・通学途中などに寄ると思う。(多数)
- 東松山駅周辺は一方通行が多く、道が入り組んでいる。駐車場はあっても分かりづらく、駐車しづらい。(多数)
- 車で移動できれば、郊外の大型商業施設で買物の用は足りる。(多数)

★アンケート後の研究会では、主に以下のような考察が得られた。

- 中心市街地のリピーターは、以前は駅周辺にあったファストフード店やカラオケ店等がなくなってしまったという印象を強く持っているため、駅前に「食事処」「娯楽施設」がほしいという傾向が強い。
- ピオニウォーク東松山で実施したアンケートで「駅前にショッピング店がほしい」と答えた人は、「個店の集まり」よりも「駅前のショッピングモール」をイメージしている傾向がある。
- ピオニウォーク東松山までの交通手段は8割以上が自家用車である。このため、ピオニウォーク東松山で実施したアンケートの回答者は、大体が「自動車移動できる人」であることに留意すべきである。
- 自家用車で移動できる人は「駐車しやすさ」「道の分かりやすさ」を重視する傾向があるため、中心市街地に自家用車で訪れるのは、郊外の大型商業施設にはない施設・物に対するニーズが生じた時に限られる。このため、自家用車で郊外の大型商業施設に行くことができ、そこでニーズを満たすことができる人を中心市街地に呼び込むことは難しい。

(文責：小見 慶治)

第4章 試行的取組の実施について

1 まちなかウォーキングマップ「東松山散策まっぷ」の作成

川越市の中心市街地では、商店街と観光資源を連携させ、一部の歩道を石畳とすることで独特の歩行空間を創出し、訪れた人々の回遊性を高めている。東松山市の中心市街地でも、商店街の一部に往時の面影が残され、「箭弓稲荷神社」「やきとり」等の観光資源、さらにはインターロッキング舗装された独特の歩行空間を有しており、こうした資源を連携させることで、回遊性を高めることが期待される。

協働研究会では、「まちなかウォーキングマップ」（発行：東松山市観光協会）の作成に対し、以下のとおり掲載内容の提案を行った。

①歩くことを楽しむマップに

→気軽に持ち出せるポケットサイズ（A6サイズ A3版ハリセン折り）とし、実際にまちなかを歩いているイメージ写真を掲載

②地域の人しか知らないような情報を盛り込む

→箭弓稲荷神社や上沼・下沼のトピック、駅周辺の「今昔」比較写真を多数掲載

③ウォーキングコース上のポイントだけでなく、周辺情報も紹介

→「前橋藩松山陣屋跡」「松山高等学校記念館」等を掲載

④歩く動機付けのため、ウォーキングが健康によいことを分かりやすく解説

→大東文化大学スポーツ・健康科学部の琉子教授よりウォーキングの効用・テクニックについてのトピックを提供いただき掲載

⑤「まちなかウォーキングコース」の活用促進

→東松山市「エコタウンプロジェクト」で整備された「まちなかウォーキングコース」（自然エネルギーを活用したLED照明でライトアップし、夜間でも安心してウォーキングを楽しめるコース）を掲載（マップには、東西に延びる当コースのほか、箭弓稲荷神社や上沼等を通過し南北に延びるコースも「歩く観光コース」として掲載している）

(設置状況)



②スリーデーマーチ期間中に中心市街地で開催された東日本大震災被災地復興応援イベント「き★ず★な キャンドルストリート」で使用されたキャンドルタワーのデザインを企画・製作した。



(文責：大塚 貴夫)

第5章 中心市街地活性化方策の提案について

1 中心市街地活性化を目的とした各団体の連携

研究会では、中心市街地活性化を目的に活動している団体（ぶらっと東松山・お宝スマイル100）にお越しいただき、現状の取組内容等について伺った。

現在、東松山市内には、中心市街地活性化を目的として組織された団体が3つあり、市の補助金や観光協会の協賛金等も活用しながら、それぞれ魅力あるイベントを開催している。商店会が単独で開催しているイベントを加えると、中心市街地では数多くのイベントが開催されている。

前述のアンケート調査結果によると、中心市街地に訪れる目的としては、「買い物」に次いで「イベント」が多い。また、中心市街地で開催される特色あるイベントは、他にはない楽しみを提供することから、普段は自家用車で移動し、郊外で買い物等を済ませている人も訪れることが期待される。

こうした中、今後、イベント開催をより中心市街地の賑わいにつなげるためには、以下の3点が有効と考えられる。

- ①日常的に中心市街地を利用していない人にもイベントへ足を運んでもらえるよう、各種メディアを使ったより効果的な情報発信を行う。
- ②イベントの連携を支援しながら、様々な主体（市民・学生・大学・企業・各種団体）をまちなかに吸引する人（又は組織）を設置する。
- ③イベントに訪れた人が日常的な買い物客（リピーター）となるような仕掛けを継続的に検討する。

①については、「イベント情報を集約して一体的なPRを行う」、「各主体が相互補完的にPRを行う」ことを検討すべきだが、こうした調整を図るためには、各団体の委員を兼ねる人がいることが望ましい。しかしながら、各団体の委員の方々は本業の傍らで活動していることから、複数団体の

委員を兼ねることは時間的制約から難しいのが現状である。

このため、②のように、各主体の連携を支援する人（又は組織）を設置することで団体間の連携が推進され、さらには、地域の様々な主体（市民、企業等）とのつながりが推進されることで、新たな活動の担い手がまちなかに吸引されることが期待できる。こうした「各主体の調整役」を務める担い手は「タウンマネージャー」と呼ばれており、全国的に成功事例は様々であるが、主な選任方法は以下の3通りである。

- ・公募等により、既の実績のある人材を外から招聘して委嘱する。
- ・現在、まちなかで活躍している人材に改めて委嘱する。
- ・まだ実績のない若い人に委嘱し、地域が育て上げていく。

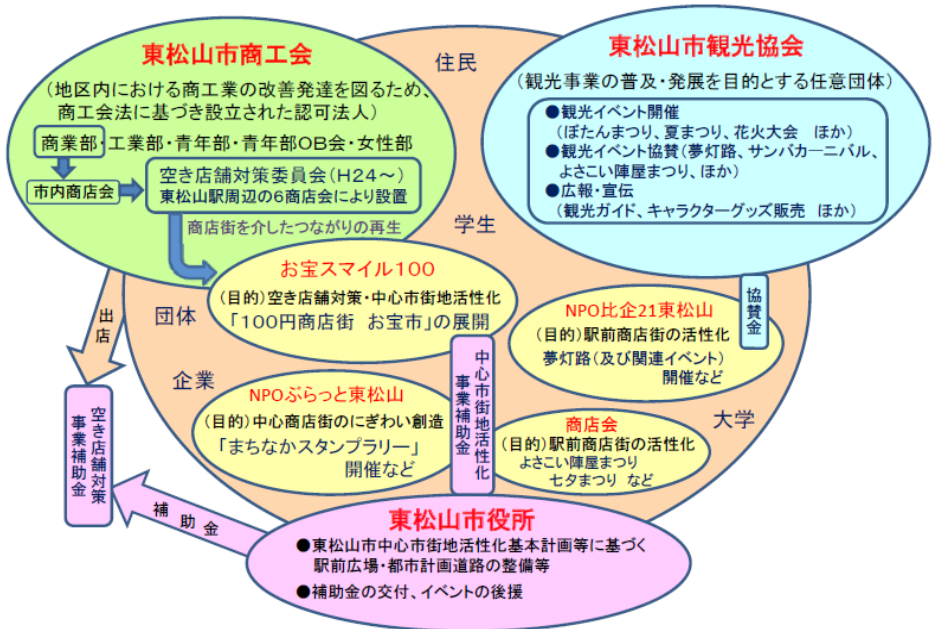
なお、こうした仕組みの導入にあたっては、事前にワークショップ等を通じた地域内の十分な意見交換が必要であり、導入後も、長い時間をかけ、地道に信頼関係を醸成していく必要がある点に留意すべきである。

また、③については、平成25年度より、「来場者に商店のリピーターになってもらう（各商店のこだわりを知る・店主と顔なじみとなる）」ことを主眼としたイベント「100円商店街 お宝市」が開始されている。

まずは店を知ってもらい、「こだわりの発見」や「おもてなしの感動」を通じて商店のファンを生み出していこうという仕掛けは、「中心市街地に常にリピート客がいる」という望ましい状況につながることを期待されるが、取組は始まって間もない段階であるため、引き続き、イベントが継続・発展していくよう、地域全体で盛り上げていくことが必要である。

中心市街地活性化に向けた現在の取組は概ね次表のとおりであり、様々な団体が事業を展開していることがわかる。イベントに地域住民や学生、大学、企業等が参加し、徐々にまちなかのリピーターが増えていけば、中心市街地への新たな出店も期待され、さらに買い物客が増えていくというサイクルが生まれ、継続的な賑わいの創出につながるものと考えられる。

(中心市街地活性化に向けた現在の取組)



2 中心市街地の誘客ターゲットの明確化

アンケート調査結果の考察で述べたとおり、自家用車で移動する人は、目的地までよりスムーズに到着、駐車することができ、かつ一通りの商品が揃う大型商業施設を選ぶ傾向が強い。一方、超高齢社会を迎える中では、今後、自動車の運転を控える高齢者が増えてくることが見込まれる。

このことから、中心市街地の資源を見直し、高齢者のニーズに合致したまちづくり(安心して歩ける歩行空間の創出、商品宅配サービスの提供、会合・サークル等のための施設の提供)を進めることができれば、(自家用車で移動する人を主な誘客ターゲットとする)大型商業施設との棲み分けが可能になると考えられる。

(誘客ターゲット棲み分けのイメージ)

《自家用車で移動しない人 (主に高齢者)》

(主な外出手段)

- 公共交通機関 (電車・バス)
→比較的、気軽に利用できる
- 家族・知人が運転する自動車
→気兼ねや不自由さがあり、気軽に利用できない
- タクシー →金銭的に頻繁には利用できない

高齢者の主な外出目的

- 買い物
- 会合・サークル
- 病院、飲食店など



《自家用車で移動する人》

→日常の買い物(食料品など)は車で利用しやすい郊外の店舗を利用する傾向が強い。中心市街地まで車で行くのは、「イベント」や「特別な商品・サービス」を求める時に限定される傾向がある。

(文責：新井 弘)

第6章 総括

1 活動経過

	と き	と ころ	主 な 内 容
第1回	平成24年3月30日(金)	東松山市役所	顔合せ・現地視察
第2回	平成24年4月23日(月)	大東文化大学	中心市街地の現状について
第3回	平成24年5月28日(月)	大東文化大学	各研究員企画案の発表
視察	平成24年6月23日(土)	川越市	視察
第4回	平成24年6月25日(月)	東松山市役所	「ぶらっと東松山」の取組について・川越市視察報告
第5回	平成24年8月1日(水)	東松山市役所	企画案の検討
第6回	平成24年8月27日(月)	東松山市役所	企画案推進策の具体的検討
第7回	平成24年9月25日(火)	東松山市役所	空き店舗の活用方策について
第8回	平成24年10月23日(火)	東松山市役所	まちなかウォーキングコース整備・聞き取り調査について
調査	平成24年11月4日(日)	日本スリーデー マーチ会場	聞き取り調査の実施
第9回	平成24年11月27日(火)	東松山市役所	聞き取り街頭調査の結果報告
第10回	平成25年2月5日(火)	東松山市役所	マップの作成について
第11回	平成25年3月18日(月)	東松山市役所	中間報告について
第12回	平成25年6月24日(月)	東松山市役所	商店街の新たな取組について
第13回	平成25年7月22日(月)	大東文化大学	向こう3年程度の取組について
第14回	平成25年9月3日(火)	東松山市役所	「お宝スマイル100」の取組について
第15回	平成25年10月22日(火)	大東文化大学	今後の取組について
第16回	平成25年11月18日(月)	エキチカ奥	聞き取り調査の内容について
調査	平成25年11月30日(土)	ピオニウオーク 東松山	聞き取り調査の実施
第17回	平成26年1月20日(月)	東松山市役所	調査分析・取りまとめ

2 研究を振り返って

●大東文化大学法学部教授 中村 昭雄

東松山市と大東文化大学は、平成19(2007)年に「地域連携協働研究協定書」を結び、その後、具体的な研究テーマを設定し、研究を開始した。

平成24(2012)年から二つのテーマが設定され、私はそのうちの「中心市街地活性化方策」のコーディネーターとして参加した。そのきっかけは、大東文化大学の東田親司教授(地域連携センター所長)から、板橋区での協働研究の経験があり、研究テーマも近いのではないかというお誘いがあったからである。

特段、コーディネーターの役割が決まっていたわけではなかったが、今までの協働研究の経験を踏まえて、東松山市と大東文化大学の橋渡しをする役割と理解した。

研究会は、平成26(2014)年1月までの2年間に17回開かれ、その他に視察が1回、調査が2回行われ、ほぼ毎月、コンスタントに研究会が行われた。

研究員は、市側が2年間で10人、大学側は教員2名、大学院生が2名オブザーバートして参加した。また、東京電機大学の先生にもオブザーバーとして参加していただき、有益なアドバイスをいただいた。

「中心市街地活性化方策」のテーマは、空洞化の進行する中心市街地の活性化、特に東武東上線東松山駅を中心とした地域の活性化が目的であった。既に、東松山市は平成13(2001)年10月から、駅前広場や都市計画道路の整備等のハード事業を中心に事業を展開している。しかし、その後の市民意識調査で、依然として中心市街地活性化の必要性がみられ、その延長線上に、本研究テーマが設定されたものであると理解される。

本協働研究は、どちらかというソフト面に焦点を当てた。様々な団体が活性化のために独自の事業を展開しているが、それぞれの団体が連携をキーワードに活性化を進めることを中心に論じている。詳細は、本文を参照されたい。

さて、私はコーディネーターとして、今後、協働研究がスムーズに進むために、いくつかの原則を改めて確認しておきたい。まず、行政と大学という世界の異質性を両者が認識することが重要である。その異質性から、誤解や混乱が生じるからである。そこから、①相互理解、②対等の関係、③公開の原則、④「報告・連絡・相談」等の原則が重要となる。

最後に、この協働研究に参加した全ての研究員に御礼を申し上げます。

また、事務局を担当した市職員の内田氏と小見氏には、厚く御礼を申し上げます。

●大東文化大学経済学部教授 花輪 宗命

私は、大東文化大学経済学部で、地方財政と公共政策を中心とした分野の教育と研究に携わっているが、この度の協働研究の課題は、私の専門分野の研究課題そのものであり、自ら志願して研究チームに加えさせて頂いた。

現実の政策課題について、選りすぐりの市職員と、現場を踏まえた研究と討議を重ねることは、大変興味深く刺激的であった。しかし、実現可能性の高い具体的な政策提言することは、決して生易しいものではなかった。今や全国共通の課題になっているこの問題については、既に他の自治体でも様々な取り組みが行われており、東松山市でも、考えられる施策については、殆ど取り組まれてきていたので、それを超える斬新で効果的な施策を紡ぎ出すのは不可能に近く思われ、途方に暮れた時期もあった。

一方、東松山市が私どもに協働研究を呼びかけて頂いたのは、将来の社会を担う若者の目を通してこの課題を考えてもらいたいという狙いもあったのではないかと思ひ、私のゼミの学生にも声をかけて、ゼミの共同研究のテーマにしてもらった。幸い彼らもこの課題に興味を示し、何回か東松山市の中心市街地を歩いてもらい、商店主や買い物客にインタビューもしてもらった。それを踏まえて、彼らなりの指摘と提案をゼミ論にまとめてもらったが、元気盛りの大学生にとっても、中心市街地の活性化策を考え付くには大変苦勞していた。

そのような訳で、この度まとめた報告書は、当初の目論見には及ばないものとなったかもしれないが、おゆるしいただきたいと思う。

●大東文化大学外国語学部准教授 白井 春人

学内の委員会等と一緒に仕事をしていた中村昭雄教授のご紹介で、本研究会に参加させていただいた私は、大学では「フランス語」や「舞台芸術論」を教えているため、「中心市街地活性化」とは専門と程遠い研究テーマであった。

他方、東松山校舎に研究室があることもあり、5年ほど前に東京より東松山に移住し、「この街＝東松山」の未来に大変関心があったことも事実であった。

池袋や都心で買い物や食事をし、芝居や本屋に出かけ、日常の買い物は「高坂」で済ましている私は、「東松山」へ行くのは市役所に行くか、箭弓稲荷神社に初詣やお祭りで行くくらいしか機会がなかった。その少ない機会でも「東松山」の中心市街地が、さびしく活気がないことは分かっていた。

毎月1回のペースで2年間にわたり、市役所の方、大学関係者間で、自由闊達な意見交換・協働研究を通じて、「東松山」が抱える問題を検討してきたことは、地元住民でもある私にとって大变得難い経験であった。

その中で特に印象に残ったことは、私が立案した2つの計画、即ちピオニウォークで実施された「アンケート調査」と、「駅前屋外仮設スケートリンク計画」である。

前者は、2013年11月30日実施され、その概要については本冊子に収録されているので、詳細はそちらにゆずるが、「寂れる中心市街地＝東松山」を「発展する郊外型SC＝高坂」で考察するという、この「逆説的アンケート調査」により、新しい発見が数多くもたらされたのではないだろうか。(なお、ピオニウォークに於いて、この種のアンケート調査が初めて実施されたということも特筆すべき事であろう。)

後者は、幻の計画に終わったが、東松山駅前に冬季の3か月間アイススケ

ートリンクを仮設で設置して、「にぎわいの創出」とともに、市民のスポーツや健康増進を図るという「壮大な計画」であった。この無謀とも思えるプランを、真剣に討議するという柔軟さを、この研究会は持っていたのである。

いずれにせよ、本研究会で検証されたことが、「この街＝東松山」の未来に少しでも活かされれば、このうえない喜びである。

●東京電機大学理工学部教授 岩城 和哉

専門が建築なのでまちづくりの実践の場に参加できたことは貴重な経験となりました。東松山市はスリーデーマーケットの開催地であり「歩く」というコンセプトが日本で最も似合うまちのひとつです。このコンセプトを実体化するための方策を皆さんと議論し、いくつかの実験的な試みも行いました。私自身にとってこの研究会で得られた大きな成果は、皆さんとの議論を通して「歩く」というシンプルなコンセプトが多面的に発展する可能性をもつことを確信することができた点です。まちづくりは複雑な条件が絡み合い、手間と時間のかかる作業です。それゆえ、進むべき方向を示し、関わる人々が皆で共有し、多様に解釈可能で、かつシンプルなコンセプトを掲げることが重要です。まちづくりの様々な活動を常に「歩く」というコンセプトと照らし合わせながら進めてゆくことで、東松山における中心市街地活性化の糸口が見えてくるのではないかと漠然と考えています。

●大東文化大学大学院

法学研究科政治学専攻 公共政策学専修コース 高野 僚子

私は、この2年間のプロジェクト(以下、PT)に、1年目は大学院生として、2年目は社会人としてオブサーブ参加をさせていただいた。その為、自身の研究にも大変役に立つ2年間になった。このチャンスから頂いた学びや気づきを今後の各種活動に役立つものとして残すために、出来るだけ感じたままを報告する。

まず、この2年間の活動で学んだ事は「協働のしくみの重要性」である。今回のPTの活動では、東松山市と大東文化大学、東京電機大学が一堂に会して地域活性化研究活動を行ってきた。しかし、所属団体の域を超えた、お互いの強みを活かすコミュニケーションができる距離までは縮めきれないうちに、2年間のタイムリミットを迎えてしまった感が否めなかった。

このように感じた理由は、気軽な「報告・連絡・相談」を積み重ねたコミュニケーションが図り難かったのではないかと考えたからである。今から振り返ると、「相談」に注力したコミュニケーションで、より自由な意見交換を行える環境の創出に尽力したほうがよかったのではないかと感じている。

他には、活動期間が短く多忙な人材で構成されるPTでは、早急にその距離を越えた密な情報共有を行うことが最重要になってくることも学んだ。

これらの事から、メンバーの強みを理解しあい、それらを最大限に活用した活動で研究を進める仕組みづくりが重要だと確信した。

次に、気づいた事は、東松山市は、地域活性化のためにバラエティに富んだ様々なイベントを企画し実践している町だという事である。その為、多種多様な団体が活動しており、変化があるように見えた。

一方で、イベント疲れを感じる人、継続の為の大きな苦勞の存在がある現実を知り、関係者が心から楽しんでいる地域活性化イベント活動ばかりではないという事にも気づいた。

このような学びや気づきをいただけたのは、このPTで、地域活性化のために頑張る行政マンや、市民の皆さんとの出会いがあったからである。そこから、自主的な継続性のある協働活動を進めるための「複数のキーマンになりうる方の存在」を発見した。しかし彼らの間には、強固な結びつきは産まれていないということにも気づけた。

これらの事から、行政マンや大学教授、市民といった異質な存在同士を、いかにして巻き込むかが重要で、各自が理解の上で同じ方向への一歩を進めるかが大切だと感じた。

最後に、このPTは区切りを迎えるが、今回明るみになった「協働の仕組みの構築」を多くの人材を巻き込みながらすすめる事が、「継続性のある協働活動の普及」に繋がると確信した。

このような確信を持つ事が出来たのは、オブザーバーの私にも自由な発言の場を下さったPTメンバーの皆さんのおかげあり、事務局としてとりまとめにご尽力いただきました皆様のおかげです。また、何よりもこの活動に忌憚のない意見を下さった市民の皆さんや、惜しみない協力をしてくださった学生の皆さんのおかげです。ありがとうございました。

●大東文化大学大学院アジア地域研究科 加藤 たづる

今回東松山市との協働事業の一環として、市の中心市街地の活性化を考える協働研究にこの2年間参加してきた。

東松山市というと、大学のある埼玉県比企地域の中では比較的規模の大きな街として認識があった。しかし、実際に市内を歩いてみると、シャッターの下りている個人商店や、商店街の中に空き店舗が多々見受けられ正直驚いた。

中心市街地が発展していくためには、若年層の取り込みも必要ではないかと考える。市内には著名な高等学校が2校あり、多くの高校生がいる。定着する顧客ではないかもしれないが、街の雰囲気明るくするという点でその役割として十分あるのではと考える。今後、地域イベントというハレの場所だけでなく、日常的に高校生を含めた若年層を街にどう定着させていけるかも考える必要があるようにも思う。

オブザーバーとして、また院生として、東松山市との協働研究へ参加し、この2年間地域の活性化という事業に係われ、とても良い経験ができた。

●東松山市教育部部長（研究会在籍時：環境産業部次長） 塚越 茂

平成24年度に1年という短い期間であったが、この研究会に参加する機会をいただいた。研究会から遠ざかって約1年が経ち、今あらためて反省

を含めて、こう感じている。

私は中心市街地の活性化を近視眼的に捉えていた。どうすれば、商店街に昔のような賑わいを取り戻せるか。たとえば、道路や広場などの「ハード」をどう整備したらいいか、イベント開催などの「ソフト」をどう展開したらいいのかなどと。

ところが、社会は大きく変わっていた。急速な少子高齢化、経済のグローバル化による国内生産の縮小、モータリゼーションや情報通信技術の飛躍的發展によって、市街地の空洞化は進むばかりで打つ手がない。

ならば、視点を変え、複眼的に物事を見るべきだった。今の世の中、人が何に渴望し何を求めているか、何に幸福を感じるかをあらためて根底から探るべきだった。人が集まり、繰り返し訪れるのは、その場所で、楽しさや心地よさ、満足感や達成感を味わえるからだ。

トヨタのハイブリッド車の販売が好調だ。他社も追随し、異なったシステムで次々にハイブリッド車を発表している。電気モーターとエンジン、二つの異なる原動力を組み合わせた省エネカーであり、異質なものを組み合わせさせて効果を高めるもの。これがハイブリッドだ。

市街地の賑わいなるものを俯瞰すると、商工業、農業、観光などの産業が中心となり、さらにこれらの支えとなる自然環境、都市環境や交通環境をはじめ住宅・雇用・福祉に関する政策など多くの要素がそこにある。だから「異質な要素を機能的に組み合わせる」こと、すなわちハイブリッドの思考が必要だったと感じている。

東松山市は、車でも電車でも都心から日帰り圏内だ。休日には、1日ウォーキングで、あるいはレンタサイクルを足にして、家族で体験型観光や寺社・史跡めぐりをさせていただく。健康づくり、親子のふれあい、歴史探訪の一石二鳥三鳥。温泉に入って疲れを癒したり、商店街で食事をしたり一杯やったり、最後は地元の名産品をお土産に買って帰っていただく。

「マチナカ」に活気が戻れば、市内からも人が集まり、そこに好循環が生まれる。そんな情景を頭に思い浮かべながら、再び機会があれば「中心市街地の活性化＝おもしろい東松山」なるものを考えてみたい。

●東松山市地域生活部文化スポーツ課課長兼ウォーキング推進室室長

（研究会在籍時：秘書室秘書課副課長） 今村 浩之

東松山駅周辺は、都市計画に基づく整備が進捗し、複数の高層住宅が建設されるなど、機能や景観が変わりはじめた。将来に向けた整備は、多くの市民の協力をはじめ、財源と時間を必要とし、また、人口動態や多様化するライフスタイル、比企地域の役割なども考慮し、当市にとって相応しいものでなければならない。中心市街地の活性化は、そこに住む人、そこで営む人、そこを利用する人が、関係性を保ちながら進めていくことが求められ、人づくりや各種団体の関連付けが重要な要因となっている。

協働研究では、行政が考える当市の現状と課題を、専門知識をもった研究員が、客観的、俯瞰的な視点から見直すことで、改めて当市の課題と魅力を明らかにした。また、地域団体との意見交換では、新たな課題を確認し、情報の共有をすることもできた。協働研究を機に、一つでも多くの方策が具現化され、中心市街地の活性化が進むことを願う。

●東松山市政策財政部政策推進課主幹 柳沢 知孝

今までの経験上、市が抱える多くの行政課題については、これだという決定的な特効薬があるものはほとんどなく、その地域の特性等といった様々な要因を視野に入れて、現場でもがきながら少しずつ時間をかけて、解決に向けて、前進していくものだといったイメージを持っておりました。

大学と市役所という異質の存在が、中心市街地活性化について協働研究を行ったことで、客観的・俯瞰的な視点から、分析や意見、提案をいただいたこと、また学生の生の視点からみた意見をいただいたこと、全てが大変示唆に富むもので、職員のみが悩むことよりもよほど視野が広がると痛感

いたしました。すぐに政策として具現化するところまでは、時間がかかりますが、大学と自治体が密接に協力し合うことにより、実現できることが大きく広がるのではないかとこの可能性を感じています。制度や位置づけなど、大学と市が連携していく上でこれからも整理すべき点は多いと思いますが、こうした協働研究を積み重ねていくことは、行政課題の解決策を検討、実施していくために大変有意義なものであると考えます。

最後に、こうした東松山市にとっては初めての取り組みに参加できたことを大変うれしく思っています。今後の大東文化大学と東松山市役所の関係がこれをきっかけとして末永く続くこと、そしてそこから、将来大学と市にとって有益な成果が生み出されることを願っています。

●東松島市建設部建設課主任

（研究会在籍時：東松山市政策財政部政策推進課主任） 内田 幸雄

中心市街地活性化は多くの街で課題とされているテーマであるが、研究を通じて様々な視点から本市における中心市街地活性化について議論できたことが、この協働研究において最も意義深い事であったと考えている。

普段なかなか議論を交わす機会がないが、大学側の研究メンバーと市側のメンバーが早期に打ち解け、互いに自由に様々な意見を交わしながら研究を進めていくことが出来たことは非常に有意義であったし、今後もなお一層大学と行政が連携し様々な取組が行われることを期待する。

また、時には学生の皆様のお力を拝借し、アンケート調査実施や調査結果に対する意見など、若者の視点から活性化を考えることも普段なかなかできない取組であり、参加いただいた皆様に感謝申し上げます。

中心市街地活性化は一朝一夕で有効策が見出せるものではないと考えるが、今回の取組が中心市街地活性化の一助となればと願う。

最後に、業務の都合により議論の半ばで研究を離れなければならないが、ご迷惑をお掛けしたことを深くお詫びするとともに、貴重な時間を割いて研究へご参加ご尽力いただいた関係の皆様にも深く感謝申し上げます。

●東松山市都市整備部まちづくり住宅課主査 矢部 克昌

本研究会に参加して、改めて中心市街地活性化の難しさを実感した。

現在、都市計画では少子高齢化社会の対策として、コンパクトなまちづくりを推奨しており、過度に車に頼らないまちをめざしている。これからの社会では中心市街地の役割は非常に大きいものになるだろう。しかし、今回実施したアンケート調査をみても、車を前提とした生活スタイルが浸透しており、まだまだ東松山市では受け入れられない現状があることを実感した。また、昭和 20 年代から計画された本市の都市計画道路は、いろいろな意味で転換期にきていることも感じた。

本研究会で大東文化大学の皆さまとの貴重な意見交換ができたことは、中心市街地の活性化のみならず、今後の都市計画を考える上で非常によい経験となった。今後、私の生まれ育った東松山市が活気のあるまちになるよう、少しでもお手伝いができたらと思う。

●東松山市都市整備部開発建築課主任 大塚 貴夫

まちの顔としての中心市街地の活性化は、重要な課題のひとつに挙げられており、私が商工観光課に在籍していた時にも駅前が寂しい、まちなかに活気が欲しいという声を聞く機会は多くありました。

市内ではここ数年で新たな組織が、従来とは違ったタイプのイベントを開催するなどの動きが始まったところでもあり、このような中で「中心市街地の活性化」をテーマとした研究を大東文化大学と行うことができたのは非常に有意義なことでした。

協働研究では教授ならではの専門的な視点や、外部の目から見たしがらみのない意見など、私たちとは違った考えに触れることができ、大変貴重な経験となりました。

運営面では手探りで進めていた感もあり、課題も多かったと思いますが、このような形で報告書をまとめることができたのは、貴重な時間を割き、最後まで積極的に意見を出していただいた大学側のメンバーの力が大き

かったと感じました。

2年間ありがとうございました。

●東松山市環境産業部商工観光課長 新井 弘

平成24年度から2カ年を掛け、ここに協同研究の成果が纏められることは、大変喜ばしいことであると感じています。一方、これから実施する課題は山積されており、どこから手をつければよいのか不安と期待で一杯の自分がいることも忘れてはいけません。

中心市街地の活性化は、今に始まったことではなく、日本各地で、懸命に行われているにも関わらず、成功例を余り見ない、非常に高度な使命を持った事業です。

私たちは、自治体特有の硬直化した意見と最高学府である大学の柔軟な意見が対立しながらも、妥協点を見出し、微妙なバランス感を持った意識集団として一定の成果をここに出すことが出来たと自負いたしております。

しかし、私たちが目指す中心市街地の活性化は、単に商店街に人を呼び戻すためのものではなく、リピーターを増やし、少子高齢化に逆行し、最終的には定住人口の増加に繋がる、まちづくりの根幹となるテーマを持っています。

今できることを今実施する。この視点に立ち、堀を埋めながら進んでまいります。そのための第一歩として、単なる点としてのイベントではなく、回遊性を高め、面的な広がりを持つ事業の推進を、各種団体等との連携を強化しながら進めることが重要な出発点であると感じています。

●東松山市商工観光課 主事補 吉村嘉泰

協働研究には平成25年度からの1年間参加し、様々な視点で中心市街地の抱える課題や中心市街地活性化の必要性について有意義な議論を重ねることができたと感じております。

当市のみならず多くの自治体が抱えるこの問題は、商店街の活気を呼び

戻すイベント等の実施だけでなく、常に5年後、10年後を見据えた中長期的な考え方が必要だと再認識する事ができました。

本年も各種団体による活性化の取組で、個店の魅力発信と回遊性を高める事を目的としたイベントも実施され、商店街の持つ良さを広める「きっかけ」となっております。こうした動きを単発で終わらせず、他のイベントとの連動性を持たせる事で、新たな価値を見出せると考えております。

また、アンケート調査の結果より、若年層、子育て世代、高齢者のそれぞれのニーズに合わせた施設や空間整備の必要性や、車道・駐車場の整備等も重要な課題であります。こうした問題点を解決していく事が求められています。

最後になりますが、貴重なご意見、ご協力をいただきました大学関係者の皆様に心より感謝を申し上げますとともに、本研究会の成果が、今後のより良いまちづくりの一步となることを祈念しております。

●東松山市政策財政部政策推進課主任 小見 慶治

研究会には約1年間参加させていただきました。アンケート調査など、色々動きながら考えたことで見えてきたことがあるように思います。

これからの中心市街地に望まれているのは、地域独自の文化に根差した「楽しい時間・心地よい空間」が生み出されることだと思います。多くのファストフード店が撤退した一方、逆にスローフードにこだわった店が幾つか開店し、環境配慮型の商店街づくりが進むなど、新たな風も起こりつつあります。また、本研究会と同じ時期に東松山市商工会内で検討が始まった100円商店街イベントは、個性的な商店の発見につながり大変面白いと感じました。

このたびの研究成果が、こうして少しずつ芽生えつつあるポジティブな流れを後押しするものとなることを願います。

結びに、大変お忙しい中、本研究にご参加、ご協力いただいた大学関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。

3 研究員名簿

(1) 大東文化大学

	氏名	所属	備考
1	中村 昭雄	法学部教授	コーディネーター
2	花輪 宗命	経済学部教授	
3	白井 春人	外国語学部准教授	
4	岩城 和哉	東京電機大学理工学部教授	オブザーバー
5	高野 僚子	大学院生（～H24）	オブザーバー
6	加藤 たづる	大学院生	オブザーバー

(2) 東松山市

	氏名	所属	備考
1	塚越 茂	環境産業部次長	H24
2	今村 浩之	秘書課副課長	H23～H24
3	柳沢 知孝	危機管理課副課長(H24) 政策推進課主幹(H25)	
4	矢部 克昌	まちづくり住宅課主査	
5	内田 幸雄	政策推進課主任	H23～H24（事務局）
6	大塚 貴夫	商工観光課主事(H24) 開発建築課主任(H25)	
7	新井 弘	商工観光課課長	H25～
8	吉村 嘉泰	商工観光課主事補	H25～
9	小見 慶治	政策推進課主任	H25～（事務局）

※所属欄には、委員として在席していた当時の所属・職名を記載しています。

（文責：吉村 嘉泰）

資料Ⅰ アンケート調査票（中心市街地で実施時に使用）

中心市街地活性化方策研究会アンケート

◆お話を聴き、該当する項目に、「○」及び「コメント」を記入してください。

回答日 2012年11月4日(日)

会場 (東松山駅 スリーデーマーチ中央会場)

スリーデーマーチ	Q. 1	回数	スリーデーマーチには、何回目の参加ですか？ (例：○回目、○回以上、観る(応援・付き添い)だけで○回)		
	Q. 2	住まい	どちらからお越しですか？(エリアを聞く質問) (お住まいはどちらですか？)	東松山市内	中心市街地
	Q. 3	要望	今後のスリーデーマーチに求めるものは何ですか？要望など。	東松山市外	その他
				埼玉 県内	
				埼玉 県外	

東松山市中心市街地・商店街	Q. 4	頻度	東松山市中心市街地(駅周辺の商店街)に行く頻度を教えてください。 *交通手段は問いません	1 ほとんど毎日
				2 週に 2~3回
				3 月に 2~3回
				4 月に 1回
				5 年に 3回~4回(3ヶ月に1回位)
				6 年に 1回
				7 行かない(行ったことがない、知らない、自動車等で通過)
	Q. 5	商店街・店舗名	どの商店街の頻度が多いですか？ (複数回答可) ※具体的店舗名でも可	1 ぼたん通り
				2 まるひろ通り
				3 中央通り
				4 東松山駅西口
				5 東松山駅東口
				6 松葉町商業会
				7 東松山一番街
				8 材一商工研究会
				9 本町商店会
				10 具体的店舗()
	Q. 6	目的	東松山市中心市街地の商店街へ行く目的を教えてください。	1 やきとりを食べに行く
				2 その他 飲食
				3 買い物
				4 イベントへの参加
				新弓神社のイベント()
				東松山夢灯路(4月)
				東松山夏祭り(7月)
				その他商店街等のイベント(サンバ、よさこい、七夕)
				5 仕事の為
				6 散歩コースになっている
				7 友人・知人がいる
				8 自宅(帰省)
				9 その他()
	Q. 7	希望	駅前にはどんなものがあつたらいいですか。(駅前限定です。)	
			中心市街地への希望を教えてください。 (イメージ、求める機能・業態、具体的店舗など自由に！)	

属性	男性	女性			
年代	10歳未	10代	20代	30代	
	40代	50代	60代	70代~	

資料Ⅱ アンケート調査票（郊外の大型商業施設で実施時に使用）

東松山市中心市街地活性化 意識アンケート

このアンケート調査は、中心市街地をメインフィールドとして、消費拡大や集客力向上といった地域を活性化するための方策について、東松山市と大東文化大学が協働で研究するための基礎資料を得ることを目的に実施するものです。

* 該当箇所には「○」、およびご意見をお書きください。

問1	居住地	東松山市内 字名・町名 { (※)「あずま町」「岩殿」「若松町二丁目」など
		市外 市町村名 { 吉見町・川島町・鳩山町・嵐山町・滑川町・坂戸市・その他() }

問2	交通手段	自家用車	電車で 徒歩	電車で シャトルバス	自転車 またはバイク	徒歩	その他 ()
----	------	------	-----------	---------------	---------------	----	---------

問3	①	ピオニウォークへ来る 主な目的 を教えてください。(複数回答可) 買い物 { 食料品 ・ 衣料品(靴を含む) ・ 日用品(医薬品・生活消耗品など) ・ その他() } 飲食 ・ イベント ・ 散歩 ・ なんとなく ・ その他()
	②	ピオニウォークへ来る 回数 を教えてください。(いずれかに○) ほとんど毎日 ・ 週に2~3回 ・ 月に2~3回 ・ 月に1回 ・ 年に3~4回 ・ 年に1回 ・ はじめて来た (週に1回程度)
	③	東松山市の 中心市街地(東松山駅の周辺) に行く 回数 を教えてください。 ほとんど毎日 ・ 週に2~3回 ・ 月に2~3回 ・ 月に1回 ・ 年に3~4回 ・ 年に1回 ・ 行かない (週に1回程度)
	③-1	③-2
	③-1	* 東松山市の中心市街地に行く回数が「ほとんど毎日」~「月に2~3回」という方にお聞きます。 東松山市の中心市街地に行く 主な目的 を教えてください。(複数回答可) 買い物 { 食料品 ・ 衣料品(靴を含む) ・ 日用品(医薬品・生活消耗品など) ・ その他() } 飲食 { やきとり ・ その他() } イベント { スリーデーマーチ ・ 夢灯路 ・ 夏祭り ・ サンバ ・ よさこい ・ セツまつり ・ 箭弓神社 } その他 { }
③-2	* 東松山市の中心市街地へ行く回数が、「月に1回」~「行かない」という方にお聞きます。 東松山市の中心市街地へ 行かない理由 を教えてください。 { }	

問4	東松山駅前 に欲しいものは、なんですか？ (東松山駅の周りに欲しい施設やお店などはありますか?) { }
----	--

問5	東松山駅前 の中心市街地へ希望することは、なんですか？ (「こんな環境(空間)がほしい」「こんなことをしてほしい(してみたい)」というのがありますか?) { }
----	---

ご協力 ありがとうございます

(以下の属性は、アンケート後に調査者がご記入ください)

属性 (いずれかに○)	年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	
	性別	男性	女性						
	誰と	家族と(子どもと)		パートナーと(夫婦で・恋人と)		友人と	一人で	その他	

調査者()